

令和元年度 まちづくり事業町民説明会 概要報告

- 1 開催日時** 令和2年1月20日(月)・23日(木)・24日(金) 19時30分～
- 2 会場** 見高浜公民館、下佐ヶ野コミュニティ防災センター、
町保健福祉センターふれあいホール
3会場 全3回
- 3 参加人数** 102名(うち報道 3社)
- 4 出席者** 町長、副町長、教育長、
総務課長、企画調整課長、健康福祉課長、教育委員会事務局長
- 5 次第**
- 1) 町長挨拶
 - 2) 職員紹介
 - 3) 町長事業概要説明
 - 4) 担当課より事業説明(資料による)
 - 5) 質疑応答

6 質疑応答

(1) 見高浜公民館

Q 1	3小学校統合について、当面の間、南小学校校舎を活用するというが、当面の間とはどのくらいか？ なし崩しに南小学校になるのではないか。津波の危険が想定されているので、子どもをあずける親としては心配。
A	(町長) 新校舎は中学校周辺、小中一貫校を考えている。新校舎建設には、まず用地を求めなければならない。令和5年度に新校舎完成は難しい。新校舎は大きな建物でなくてもすむのではないかと考える。なし崩しとは考えていない。 (教育委員会事務局長) 具体的な時期は決まっていないが、中学校周辺に、なるべく早い時期を考えている。
Q 2	3小学校統合後の通学方法について説明を。
A	(教育委員会事務局長) 現在協議したものは、「いつ」「どこへ」という優先的なもの。通学方法等の後発的なものの協議はまだ進めていない。河津町は中学校、幼稚園がひとつずつなので、その辺も含めて今後検討していく。
Q 3	コミュニティセンターは、耐浪性能が確保された場合は避難ビルになるとの説明。しかし、あの辺は町の中心部で多くの人が集まっている。津波被害が予想されるので、やはり耐浪を重視してもらった方がよいのではないか。
A	(企画調整課長) 参考にさせていただきます。
Q 4	コミュニティセンターを使用している。工事期間が6カ月より延びることはあるか？ 工事期間中の代替の場所はあるか？
A	(企画調整課長) 来年度(令和2年度)内に完成させたい。代替機能は、町の施設を考えている。

(2) 下佐ヶ野コミュニティ防災センター

Q 1	小学校の統合後の学校の跡地利用は計画されているか？
A	(町長) 準備委員会から答申が出たので、3月に町としての方針が決まる。その後の活用は地域のみなさんと委員会を作り方針を決めたい。地域の人のために活用したい。
Q	統合が決まってから計画するとさらに活用が先に延びるのではないか。早めでも先を見据えて検討組織を作った方がよいのではないか。テレビで、寂れた温泉地が専門家の意見を取り入れ人気が出た例を見た。跡地利用の委員会は、地元の人もいいが専門家のアドバイザーを取り入れて検討してほしい。
A	(町長) 3月の住民説明会を経て町の方針を決める。1日も早く方針に向けて実施したい。
Q 2	子育て施設、小学校統合の説明のなかで、学童保育について触れていない。どのように考えているのか？ 現在の南小体育館の2階の学童保育はどのような方向でいくのか。
A	(町長) 答申の中に、「学童保育は新たな統合小学校の中につくる」となっている。子育て支援センターの中にも規模の小さい児童館的な要素を入れることが可能であれば検討しようと考えている。子どもたちの拠点施設として活用できるように検討していきたい。
Q 3	コミュニティセンターを利用する人の工事中の代替施設はあるのか？
A	(町長) 町の使用可能な施設、たとえば高齢者いきいきセンター(旧双葉幼稚園)などを各団体と相談しながら利用していただくようご理解いただきたい。
Q 4	七滝観光センターが3月で閉店し解体すると聞いている。解体後はどう使用するのか？ ジオパーク(ビジターセンター)は別の場所に移すのか？ 「泣かせ隊食堂」の一部をバガテルに持って行ってはどうか。
A	(町長) 借地なので地主の意向もあるが、その後の活用はまだはっきりしていない。ジオパーク(ビジターセンター)は早急に検討したい。「泣かせ隊食堂」は法人としての方針もあると思うので、希望があれば協議したい。
Q 5	(その他) 過疎対策として町が先頭にたち移住者の誘致、遊休地の対策をやってもらいたい。地区が消滅する危機感がある。
A	(町長) 過疎化、少子高齢化は大きなテーマ。小さい町だけでは住民サービスが難しいので、国も広域化を進めている。賀茂地区も広域連携で一定の成果が出ている。人口を食い止める唯一の希望が移住と交流人口、インフラの整備。伊豆縦貫道早期開通で大きく変わってくる。総合的に町自体を魅力ある町にしていきたい。

(3) 保健福祉センターふれあいホール

Q 1	子育て施設の1日の利用者数の想定は？ 土日の運用は？
A	(健康福祉課長) 1日の利用者数は、現在の「子育てサロン」(保健福祉センター2階)の利用者数を想定している。先進地視察によると、近隣市町からの利用者がいたので、近隣からの利用者も見込んでいる。土日の運用は、先進地視察によると、子育てセンターと児童館の機能をうまく活用し、1週間通して開館し、利用されていた。運営形態については建設中に先進地事例を参考にしながら議論していく。

Q	近隣市町の利用者を受け入れると職員もたいへんになるので、その辺も考慮してほしい。
A	(町長) 先進地を視察したところ、雨の日の利用や、日曜日には若いお父さんの利用が多いことがわかった。今回の計画では新たに、お弁当を持って利用する人などに対応するために飲食スペースを加えた。また施設内を区切らずワンフロアにした。運営面は、運営委員会をつくり検討していく。
Q 2	子どもの数、令和元年度に対し令和 8 年度には 3 割減るとの説明だが、どの時点の子どもの数の設計か？ 広すぎないか？
A	(健康福祉課長) 人口は減るが、できるだけ減らさない対応として、移住定住者を見越して安心して過ごせる施設とした。当初 800 m ² の予定だったが、子ども子育て会議、先進地視察を経て、650 m ² に減らした経緯がある。子どもたちが安心して過ごせ、相談できる場として、最小限確保しなければならない面積とした。今の人口をできるだけ維持し健やかに過ごせるようにしていきたい。
Q 3	小学校統合後の学校の利用法は決まっているか？
A	(町長) 今はまだ町の方針は決まっていない。3月の住民説明会を経て町の統合の方針が決まってから、利用の検討をスタートする。
意見	子どもの数が減って、統合することになり、答申内容では「教室内で多様な意見を交わすために3～4人では困る。数十人いた方がいいから数を確保する」としているが、もしかしたら複式学級の方がおもしろいのではないか。東小、西小は、歴史と文化の中に学校があることが地域にとって財産なのではないか。私も移住してきて、西小は川端康成の文学碑も近くにありいいところだなと思っていた。 新しく児童館や学童保育ができると河津の児童館はいいなと子どもが増え移住してくる人も増えることは、町が望むことかなとも思う。(意見として)
意見	小学校統合について、前住地では、1学年1クラスだといじめられたらずっといじめられたまま。統合するメリットは、クラス編成ができることもメリットだと思う。(意見として)
意見	バガテル公園は、土地を借りているので、いつかはそこを返さなければならない。使用している土地を何年か先に購入することも考えていかないと、土地の所有者も高齢化で手続きが難しくなってくる。パリ市との協定についてと、この2点をきちっと検討していくことをお願いしたい。(意見として)
意見	パリ市と河津町では規模が違うので無理がある。観光客をいかに呼ぶかを優先してやるが、同じ維持しているのであれば、町民が「遊びに行こうよ」と広場で食事やミニコンサートなど町民が気軽に行けて楽しめるのもいいのではないか。(意見として)